

校長先生とクリスマス

日本ではクリスマスの一ヶ月も前から街々にデコレーションが山積みになってありますが、ドイツではデコレーションをクリスマス・イブから飾ります。クリスマス用の飾りは待降節にやり私達子供は父母に内緒でプレゼントをこの期間に用意し、父母も子供達に分らないように用意します。そして二十四日の夜になると子供達は早く床につき子供達が寝ている間に父田はクリスマス・デコレーションを飾りクリスマス・ツリーの下にプレゼントをおいておくのです。真夜中のミサに与つてから家に歸つてまると先ず、朝起き直夜中 (Silent Night) にドイツ語で合唱し、「クリスマスおめでとう」とあいさつを交し、それから自分で作ったものやおこずかいで買ったものを父田にプレゼントします。それがいままでの神に感謝するものです。

ドイツでは二十五日は家庭中心のクリスマス祭の事です。ですから、この日、私達はどこへも行けません。勿論学校会や会に集り、クリスマスのパーティーを開きます。

何故クリスマスにプレゼントをするか知っていますか。神は世界に偉大なプレゼントをなわち救世主イエス・キリストをお遣しになりました。この神の愛に感謝し、又相互の愛を表すために贈物をします。殊に親子の間では盛んです。あなた達はどのように出来たのでしょうか。しかし長い伝統を持つお正月のように良い伝統としたいものです。又待降節の準備は自己訓練と精神の修養となります。



May the Spirit of Christmas abide with you all year

クリスマス、イブにミサに与る前に近所のクリスマス・ツリーが出来ている林へ行きました。私のいる所は非常に雪く、大抵クリスマスには雪が深く積っています。そのクリスマス・ツリーの一本一本に四十本ぐらいのローソクをとめます。雪が積かっているので一層きれいです。このように私達のクリスマスはほんとうにクリスマスの精神に基きいていっているのです。

私がまだ小さい時から母は小さな黒小屋を作つて下さり、私が良い事をしたり、おとなしくしていたりするとその中にわらわを入れ、おいでになるキリストが奪かないようにします。又、いうことを聞かないとどのわらわを取つてしまふこともあります。これは外面的なことですが精神の修養に大いに関係があります。クリスマスは家庭的なことから、イエス会に入会して

からは大してその楽しみを味わうことは出来なくなりました。司祭としてこの喜びを他人に分け与える役になつたのです。しかし他人のために働くことは大に喜ばれます。——と雪深い故園ドイツのありし日をしのびつつ校長先生は語られた。

全信者の大きな喜びであるクリスマスが今年も近づいてきて今年には全信者の中の希望者が学校に泊つて夜中の式典及びミサに与る。

六時半より学校に泊り、十一時十五分よりきれいに飾られた聖堂で式典及びミサが行われる。

聖堂は中央祭壇の後ろには金色の幕が張られ、祭壇の横には二位の天使がイエス様を礼拝し、又祭壇下左側にはエルサレムの市街模型並びに脱の褥世が飾られ、右側には夜の空を表した美しい色の幕の前に、クリスマス・ツリーが飾られる。

式典は聖歌と聖書により劇によつて、一、待降節、二、聖母マリアのお告げ、三、エルサレムの陥落によつて行われ式典が進むとともに聖堂が明るくなる。

そして次にミサ聖祭が行われ、信者のものは御聖体拝領をし、式がお終りとまたねむる。

朝八時半より洗礼式があり、受洗者は

アロイジオ
 ブルーノ
 バルナルディン
 ヨハネ
 ライムンド
 イグナチオ

Santa Claus はオランダ語の *Sinterklaas* 英語読みにしたもので日本語では、聖ニコラスが適當な読み方だそうです。聖ニコラスは三世紀の末に *Niceia's Patriarch* という所で生れ、小さい時から徳心深く、若い時分巡礼者として聖地パレスチナを動いた事もありました。しかし、或る時彼は神威を得 *Myra* の町に行くように告げられました。彼が彼地に到着する少し前にこの司教がなくなり、その町では丁度あつた司教に誰を送るか云う事が問題になつて来たところでした。この時の人達は、夢を神から「次の司教にはニコラスと云う者を選びな。明朝

からは大してその楽しみを味わうことは出来なくなりました。司祭としてこの喜びを他人に分け与える役になつたのです。しかし他人のために働くことは大に喜ばれます。——と雪深い故園ドイツのありし日をしのびつつ校長先生は語られた。

(38) (ヨハネ一記)

クリスマス イーブ

Santa Claus はオランダ語の *Sinterklaas* 英語読みにしたもので日本語では、聖ニコラスが適當な読み方だそうです。聖ニコラスは三世紀の末に *Niceia's Patriarch* という所で生れ、小さい時から徳心深く、若い時分巡礼者として聖地パレスチナを動いた事もありました。しかし、或る時彼は神威を得 *Myra* の町に行くように告げられました。彼が彼地に到着する少し前にこの司教がなくなり、その町では丁度あつた司教に誰を送るか云う事が問題になつて来たところでした。この時の人達は、夢を神から「次の司教にはニコラスと云う者を選びな。明朝

外次次ナス
 ラファエル
 フラヤン
 流者ヨハネ
 ミカエル
 パウロ
 イグナチオ
 ミカエル
 ラファエル
 の十五名である。

(39) (ヨハネ二記)

クリスマスと サンタクロース

サンタクロース。この名を知らない人は多いでしょう。クリスマスが近づいた昨今、町中はクリスマス・セールが大にぎわいで、店々のシヨウ・ウィンドウにはサンタクロースの人影が飾られています。がさて、この人についてくわしく知っている人はごく少いことでしょう。この記者はサンタ・クロースとはどんな人か *St. Nicholas* におうかがいして見たい。

最初に教会堂に入る者こそニコラスである。」と告げられたので、翌朝、内巻に云いつけ、教会の入り口を見張らせ、その日最初に教会に入ろうとしていたニコラスをつかまえた。そこで、云うまでもなく、彼はそれを承認して、この町では結局ニコラスを前の司教の後つぎと決定した。

ニコラスはとてもやさしい親切な人で、常に孤児や、寡婦等の保護者となり、うしろでともなつてやつた。こうして聖ニコラスはポーランド、ベルギー、ドイツ等の子供達にまでも好かれ、祝われるようになったのだ。聖ニコラスの祝日は十二月六日で、この日はこれらの国々の子供にとつて、大きな喜ぶの日なのです。彼等は十一月末になると、この日の来るのを待ちわび、十二月五日の夜床についでからも翌朝早く起床の喜びを思つて寝つかれないのが普通だそうす。そして次の朝起きると、まず最初に *Santa Klaus* の聲にいつてくれたはずのオモちゃやお菓子やさがし、それを見つけた時の喜びはこも言葉ではいへなく、新しい年の事である。しかしアメリカではこの聖ニコラスの祝日をカトリックの最大の祝日であるクリスマスと一緒にしてしましました。そしてこの習慣が日本にも及んだので今日のようにクリスマスがサンタクロースの祝日のように思われあの救世主の誕生と云う宗教的意味がなくなつてしまひ日本ではこの日をクリスマスケーキを食べたりクリスマスカードを送つたり夜中にはサンタクロースが上

カイにみかれたぞりにのつてやつて来て、よい子には立派なプレゼントをやるためにこの子の家の煙突からおりて来ると云う日であると解釈してあります。しかしクリスマスそのものの意味は決してそのようなものではないのです。それは「今から約二千年前の十二月、その頃ユデアローマ帝国の管下にあつた、皇帝アウグストは、天下の戸籍調査を命じたので、ヨゼフとその妻マリアとは、ナザレトよりユデアのベトレヘムに二十四日ついた。しかし宿屋は一杯であつたので晩に滞在。その夜マリアは産期満ちて幼子を生み馬槽の中に寝かせておいた。ベトレヘムの近所では羊飼たちが居つたが、その前に天の使があらわれベトレヘムに救い主の生れたもう三日と告げ、天主を讃美して、天には光栄、地には御好意の人々に平安あれ。」と云つた。次いで羊飼はベトレヘムの馬槽の中に親子を見守り、主の星を見、これに導かれて、王ヘロデの所に来て救い主のベトレヘムに生まれ給ひしことを聞きベトレヘムに向うと前の星が又あらわれ野小童の上で止まつたので中へ入つたところ、親子とその母マリアがヨゼフを見出してキリストの王なるがために黄金、キリストの天主なるがために乳香、キリストの人なるがために没薬をさへかけて讚美して讃つた。」と云うことを記念するために世界各國に於てクリスマスを見るのです。

聖ニコラスは司教であり慈善家であり、よく貧乏人の家にそつと贈り物を投げ入れて行つたりしたような人だそうす。これとクリスマスとをこぢこぢやごちやにするようなことはよくありません。でありますから来年からはこのクリスマスの深い意味を忘れないう、良いクリスマスを送つてくれることをのぞんであります。(38)

イタリヤのクリスマス

イタリヤはカトリック國であるので、クリスマスが近づく

当は、彼等のお母さんが可愛い子供のために沢山のプレゼントを買つてくるのである。又あちらこちらでよく見かけるクリスマス、ツリーは多く金持の家で飾られるものであつて、一般の家では子供達の手で出来たベトレヘムが作られるのである。

なほベレッテイ先生の牧師であるイタリヤのピモンチはクリスマス前の九日間の聖備の教会の鐘の台で、グワイアと云

O Come, All Ye Faithful

*O come, all ye faithful, joyful and triumphant,
O come ye, O come ye to Beth - le - hem,
Come and behold him, born the King of angels,
O come, let us adore Him, O come, let us adore Him,
O come, let us adore Him, O come, let us adore Him,
Christ, the Lord. A - men*

今年もクリスマスの慣例の行事である学生會が午後から新年度の講義に於て行なわれる。学期試験の後、先生方の御指導のもとに、生徒達が福音に親習を兼ねて山となした彼あまの劇が歌が、詩がの大きな講堂にめかけ人々の前に於て演じられる。

劇は二年生の有志によるもので箱地電氣作、本校改作の「聖フランシスコと新しい弟子ジョハンニ」である。又かき金「去年同様、修道院の神父様等の歌われる各國のクリスマスカロルは本校学生會の特色である。英語劇は一年二年三年と各々一つづつ行う。即ち一年は「How the Christmas Dinner Song」二年は「The Bird Paper」三年は「The King's beautiful Clothes」である。

(34)

十二月二十二日
全校生徒の寺に待つて祝福発表(音楽発表)が行われ、皆の参加をすかして中を鐘と協力している優美なうちに見られる。

十二月二十日
校舎、校庭、の講義、及び短子園の等をして学校の一年間のちりほりさばらる。



學藝會